

【難波 毅のオーストラリア探訪】

南半球最大規模の ランクルミーティングへ！

9月23日から26日まで、オーストラリアの南オーストラリア州で
ランドクルーザー・クラブの全国集会が開かれ
各州から100名を超える参加があった
会場は風光明媚なことで有名なフリンダース・レンジ
期間中、クラブの将来を問う討議が連日のように行われる一方
コンボイを組んでの四駆ツアーも数多く用意され
内容の濃い充実した4日間のイベントだった

写真・文/難波 毅



会場となったローンズリー・パークから四駆
ツアーに向かうランド
クルーザーのコンボイ。
75、80系、100系での
参加が圧倒的だった。





各州のランドクルーザー クラブから66台、100名を超えるランクルファンが集まった。参加者は時間的、金銭的余裕のある中高年がほとんど。



トヨタ・オーストラリアはまだ正式発表前だった新型200シリーズをランドクルーザー クラブメンバーに特別公開するなど、異例の対応をした。



キャンプサイトにクラブのマークを掲げるクイーンズランド州のランクル・クラブ。シンボルマークは州の形をデザインしている。



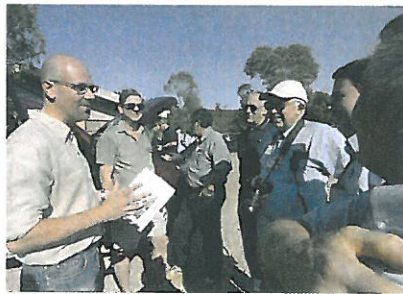
初日お昼過ぎから受付登録が行われた。たくさん名札の中から自分の名前を見つけるのはひと苦勞。



受付の終わった夕方5時からハッピー・アワー。飲み物とスナックを持ち寄り談笑する。このあと開会式セレモニーが行われた。



たくさんの四駆ツアーが設定され参加希望者は掲示板の一覧表に名前を書き入れて登録する。台数制限があるツアーは早い者勝ちである。



新型200系を紹介したトヨタ・オーストラリア商品計画マネージャーのダグ・ソーデンさん(左)の周りには質問をする人の輪が絶えなかった。



午前中は毎日役員による会議が行われ、クラブをどのように運営、発展させていくかが真剣に議論された。この模様は一般のメンバーも傍聴できた。



ビクトリア州のクラブ役員であるロン・スミスさんの80ストレッチド・エクストラ・キャブ。シャーシーを60センチ延長し、エンジンをシボレーのV8ディーゼルに換装した「シェボタ」だ。



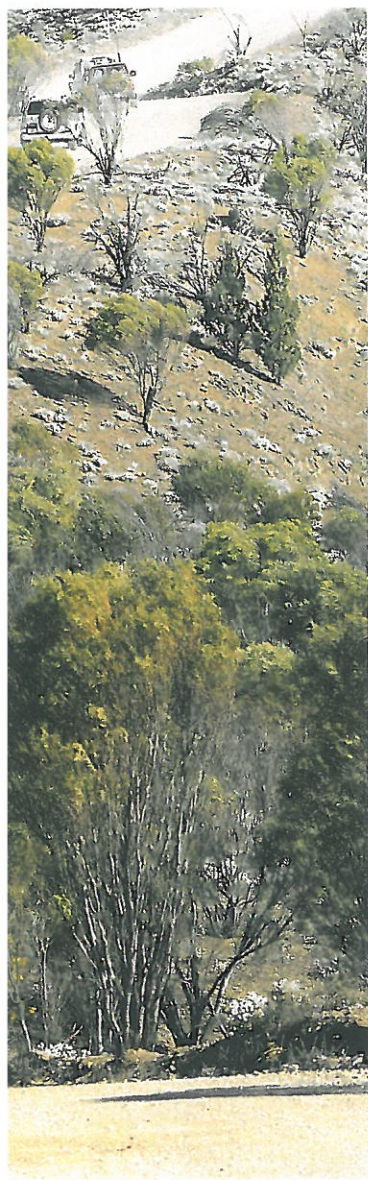
ビクトリア州の呼びかけに 他の4州のクラブが応えた

オーストラリアの
ランドクルーザー・クラブ

オーストラリアにはタスマニア州と首都特別地域を除くすべての州・地域にトヨタ・ランドクルーザー・クラブ・オブ・オーストラリアという同名のクラブが6つある。その名前の最後に「クイーンズランド」や「シドニー」といった地名を付けて州ごとに区別している。それらはそれぞれ別の生い立ちを持つ独立したクラブであり、その名前にもかかわらずランドクルーザーのワンメイクのクラブでもない。

私とランドクルーザー・クラブの付き合いは古い。1986年にクイーンズランドのクラブとデイ・ツアーをしたのが最初で、1989年には南オーストラリア州のシンブソン砂漠の縁にある大きな砂丘列の麓でビクトリア州のメンバーたちの8台のランドクルーザーと出会っている。実は3回目?の全国ミーティング

9月23日から4日間の日程で開催された全国ミーティング(正式にはトヨタ・ランドクルーザー・クラブ・オブ・オーストラリア ナショナル・カンファレンス2007)を企画したのは、メルボルンに本拠を置くビクトリア州のランドクルーザー・クラブだ。その呼びかけに応えクイーンズランド、シドニー、サウス・オーストラリア、ウェスタン・オーストラリアのランドクルーザー・クラブから100名を超えるメンバーが集まった。会場となったのは南オーストラリア州のフリンダース・レンジにあるローンズリー・パーク・ステーション・キャラバンパークだ。ここは羊牧場として開設されたが今では観光に力をいれ、30平方キロという広大な牧場内にはキャンプサイトからキャラバンパーク、エコ・ピラと呼ばれるコテージまで備わる。今回はキャラバン・パークをほぼ占有して行われた。



ミーティングに参加した56台のうち
40台はわずか3台。一斉集は138台
に集結された1980年式BJ40。手前
は車庫の1984年式BJ44。



西オーストラリア州代表の自作キャン
ンパー。HZJ75キャブシャーシーの
フレームを延長しエクストラ・キャ
ブに仕上げ、2台の冷蔵庫、熱交換
式のシャワーまで装備。快適なプ
ッシュ・キャンプが可能だ。



四駆の天国で コンボイツーリング三昧

クラブの活動の今後を
全国レベルで話し合った

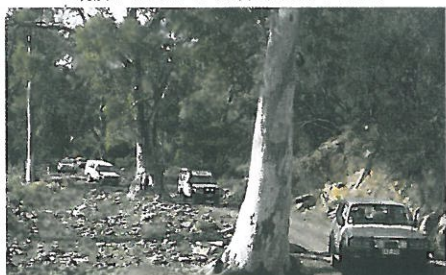
今年のミーティングの目的
のひとつはクラブ間の意見交
換と討議だった。各クラブを
将来どのように展開してい
くか、また「トヨタ・ランドク
ルーザー・クラブ・オブ・オー
ストラリア」の活動を全国レ
ベルでどう進めていくかが主
要な議題だった。

期間中毎日午前中に会長を
はじめ総務、会計、広報、クラ
ブ機関誌編集、クラブ・トリッ
プ、社交などを担当する役員
がそれぞれのテーマごとに集
まって真剣に討論が行われた。
この討議には一般クラブメン
バーもオブザーバーとして参
加することができた。

トヨタ・オーストラリアも
今回は異例の対応だった

また、こうした全国規模の
ミーティングを開催し、新製
品や新技術に直接メンバーが
触れることができる機会を提
供することも目的のひとつで
、今回トヨタ・オーストラリア
は、この時期オーストラリア
国内に2台しかなかった新型
200シリーズの1台を現地

ガムツリーの巨木が立ち並ぶ河原を走る。フリ
ンダース・レンジの羊牧場では敷地内を台数
を制限してわずかな入場料で走らせてくれる。



四駆ツアーに出発する朝、路肩に停めてブ
リーフィング。移動は前後をトリップ・リー
ダーが固め、UHF無線で交信しながら進む。



日本ではめったに見かけない75トゥール
ブキャリアや角目の80、100系がそろそろと参
加するコンボイの走行風景は迫力満点。





フリンダーズ・レンジ
国立公園で一番美しい
風景の一つであるブン
エルー・バレーのダート
を走り抜けるコンボイ。
oh what a feeling!

に持ち込み、クラブメンバーにお披露目をしたのである。報道関係に発表する前の新型車を一般に公開することは異例中の異例」と主催者の一人であるサンドラ・タナーさんは興奮気味に話す。また、クラブメンバーの前で新型200シリーズの商品解説をし、質疑応答に丁寧に答えていたトヨタ・オーストラリア商品計画マネージャーのダグ・ソーデンさんは「ランドクルーザーの市場、顧客の動向を理解するうえでランドクルーザー・クラブをとっても重要視している。それにメンバーはランドクルーザー・ブランドに忠実だしね。だから今回の特別なお披露目が実現したんだ」と解説する。

20を超える種類がある四駆を使ったコンボイツアー
一方、毎日の討議に参加しない一般クラブメンバーの最大の目的はコンボイ・ツアーだ。また会議だけでは役員も飽きる。ミーティングの会場となったフリンダーズ・レンジは同名の国立公園も擁する景勝地で海底が隆起、褶曲した山脈がいくつも走り一帯は四駆天国でもある。主催者は一日コースや午前中の会議に参加した人も参加できる半日コースなど所要時間、走行内容、難易度別に20を超す四駆ツアーを計画していた。

リアにスベアを2本背負い、HF無線機のアンテナを立てる典型的アウトバック・ツアーに仕立てられた80スタンダード。



ごろた石の転がる河原で昼食。HZJ75トゥーループキャリアで単独参加のジュディ(手前)は何をするのも下手で遅いが憎めないキャラクター。



女性陣に囲まれ記念写真に納まる巨漢スコット・ハミルトンさん。ビクトリア州のクラブで数多くのクラブ・トリップを企画している人気者。





今後は2年に1回の頻度で 全豪ミーティングを開きたい

ミーティングは大成功
このまま次へ繋げたい

「このミーティングが成功したというのには控えめな表現かもしれない。討議セッションはいつも満員で、そこから得られた成果によってランドクルーザークラブを変化の激しい時代に適応させることができる。それにより一般のメンバーがより楽しめるものになるだろう。今後は2年に1回定期的に開催していきたい」。主催したビクトリア州のランドクルーザークラブのガリー・クーパー会長は満足げだった。

ブルバークのないスツピン100。いつもはキャラバンを引いて舗装道路を旅することが多いが今回のミーティングで四駆ドライブを堪能。



フォトグラファー
難波 毅(なんば・たけし)氏

1953年生まれ。新聞社カメラマンを経て1986年独立。オーストラリアの奇岩・奇景をライフワークとして毎年のように取材を重ねる。今回主催者より招待を受けメルボルンに保管する1984年式FJ45で参加。砂漠ツアーに備えブルバー、サスペンションを交換しスペアタイヤをリアに2本背負うハードコアな改造を画策中。

